

令和2年度 身延高校第3回学校運営協議会 概要報告

日時：令和3年2月6日（土） 10：00～12：00 総合学科発表会参観（身延町総合文化会館）
14：30～15：15 学校運営協議会（身延高等学校 輝葉館）

次第 開会

会長あいさつ

校長あいさつ

議事（議長：会長）

- 1 本日の総合学科発表会の感想＜各委員より＞
- 2 今年度について
 - ① 事業報告について
 - ② 学校改善アンケートについて
 - ③ 授業アンケートについて
- 3 来年度について
 - ① 学校経営方針について
 - ② 重視すべき活動について
 - ③ 来年度の委員について

連絡

閉会

出席者 委員

学校運営協議会会長 前学校評議員
学校運営協議会副会長 山梨大学教授
身延中学校校長
同窓会相談役
身延町学校教育課課長
南部町学校教育課課長
早川町学校教育課課長
身延高等学校校長

事務局 身延高等学校教頭
身延高等学校事務長
身延高等学校主幹教諭
身延高等学校教務主任

学校運営協議会の概要

【会長あいさつ】

コミュニティ・スクールとしてさまざまなことが構築されて、新たな身延高校になっていけるように、我々委員は頑張らなければならない。県内初の高校のコミュニティ・スクールであるので、皆さんの忌憚のない意見を聞かせていただきたい。また、午前中に参観した総合学科発表会の感想等もお願いしたい。

【校長あいさつ】

年度当初より本校の学校運営、そして教育活動の全般にわたり、指導助言、また支援をいただいたことに感謝したい。この学校運営協議会においては、まず午前中の発表会について、忌憚のない感想意見をいただきたい。また、本年度を振り返り本校の各教育活動に対して、改めて指導助言をいただき、来年度に向けての改善や新たな取り組みとして生かしたい。

【議事】

1 本日の総合学科発表会の感想

〔委員〕良かったと思う。1年、2年、3年と年次を追うに従って、自分でやったことや後輩に向けてのメッセージがあって非常によかった。今の高校生はなかなかやると思った。

〔委員〕司会をする生徒や発表する生徒がみんな堂々としっかりした口調で話しており本当に驚いた。発表する生徒のプレゼン能力がすごいと思う。

〔委員〕何回か総合学科発表会に出席しているが、その都度、素晴らしい発表だと感じている。地域の親御さやこの近くの中学校の生徒がこの発表を見れば、絶対身延高校へ通いたいと思うのではないかなと思う。今回はそういった方々にアピールすることができなくて残念である。一人一人が素晴らしい発表であり、内容についても感動した。大変ではあるが先生方に指導していただきありがたい。

〔委員〕身延高校を身近に感じており、サポートとするという意識も持って中学校との連携を進めながら勤務している。子供たちの成長ぶりにいつも感心している。部活動や今日の発表会に関して、中学校時代からは想像できないぐらいのパフォーマンスを子供たちが発揮している。高校3年間でどれだけ子供たちが成長しているのかということを身にしみて感じている。高校を卒業して、外へ出て行く子達がほとんどだと思うが、自信を持って身延高校で学んだことを誇りにして活躍してくれることを期待している。

発表は1年次、2年次、3年次と徐々に段階を上げ、広くとらえていた職業を具体的にし、出口を絞っていくという総合学科としての特性を十分に生かした取り組みであった。中学生にこの発表会を見せられなかったのがすごく残念である。地域に披露することで見方が変わり、自分もそのように身延高校で取り組みたいという思いが高まったはずである。機会があるごとに中学生に広めていきたい。

〔委員〕今日の発表会を学校運営協議会の委員という目で見ると、前回の生徒とのディスカッションと合わせて、教育目標や目指す生徒像などがどの程度達成されてるのか見るための機会としてはすごく貴重であった。実際に運営協議会としてこのようなことを、今後もできれば続けていければよいと思う。発表を聞いて、自己理解から始まり、社会の理解、仕事の理解というようにして将来のビジョンを描くというキャリア教育のステップにのっとり、年次進行に従ったプログラムが組まれてると感じた。最後に一度自己省察のような場面があってもよいと思う。高校生がなぜこれを学ばなければならないのかという疑問を持った時に、特定の仕事に就くにしてもいろいろな分野のことを知っておくことが大切ということを伝えるとよいと思った。

コミュニケーション能力の必要性も多くの子供たちが感じていると思う。こういう大勢の前でプレゼンテーションができることはすごく大事である。後輩たちや中学生から質問が出てくる質疑応答の機会があるとよい。

〔委員〕総合学科の特徴は、プレゼン能力はもちろんだが、ライフプランを描き、人前で発表し、取り組んだことを見せ、見える化するようところが、普通科とは違うところである。自分の人生にとって、いろいろなキャリアを自分で探せるという部分では、総合学科の特徴がよく出されていたと思う。

2年次生の探究ではより深い学びができていたと感じた。

総合学科発表会の最初の頃は高大連携の発表も行っていた。高大連携も行っているので、その発表があると違った面白さも出ると思う。

(学校) 1年、2年、3年になるにつれ発表のレベルが上がっている。1年次生は、夏休みに行った職業人インタビューを基にして発表を行った。これをまとめて身延・南部中学校でにおいて12月のキャリアセミナーにおいて発表した。この発表の機会では質疑応答もあった。

2年次生は探究活動の成果を発表した。本来12月に沖縄へ修学旅行に行く予定であった。テーマとして、地元山梨、あるいは身延・南部、峡南地域と沖縄の違いにスポットを当て、探究活動を行い、そして現地に行き、民泊や沖縄を歩くことにより実地調査などを行い、最後にまとめをして、この発表へ繋げるという計画であった。しかし、今年は修学旅行の行き先や日程も変更になり、最後の部分が出来ないままとなったが、これまでの取り組みを発表した。

3年次生は専門学校への進路を決めた生徒と、大学へ進路を決めた生徒の今までの本校での取り組みの様子、あるいは進路を決めるまでのいろいろな経過を後輩へ伝えたいという思いでこのような発表を行った。

(校長) 今回、中学生に参加してもらえず保護者も呼べなかった点については非常に残念に思う。私も、準備段階からいろいろ見ていたが、本番を見て驚いたところもある。

本校のいろいろな魅力、本校で行っていることや生徒の姿を伝えることが一番説得力がある。今回の発表会は、ぜひ何らかの形で広報したいと思う。

(教頭) 本校は、山梨県立大学と連携していろいろな課題について研究し発表をしている。身延町から支援をいただく中で、身延町の観光について研究し町に提案をしてそれが実現したこともある。昨年度は、進学などで山梨を離れた学生が、山梨、身延に帰って来るための地域の働く場所の現状について研究し、リーフレットにまとめ発行している。今年度も、引き続き行っている。

この総合学科発表会においては、発表時間が延び予定時刻を超えることがあったため、内容を総合学科の発表だけに絞り昨年度から高大連携の発表を除いた。2年前までは、高大連携の発表も行われていた。

2 今年度について

①事業報告について

(教頭) 4月は、諸々の行事がすべて中止となった。

5月に入り、年次ごとの分散登校が始まった。5月25日に、入学式の代替として入校式を行った。

5月29日に紙面上にて学校運営協議会を開催した。

6月8日から全年次そろっての登校が開始された。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の関係で、7月の学園祭、防災セミナー等軒並み諸行事が中止となった。

夏休みについては、学習の機会を確保する観点から8月3日から17日までに短縮して夏季休業とし、18日から学校再開とした。

6月の学園祭が中止になったため、代替として9月に学園祭の運動会部門のみを密にならないよう工夫して実施した。

10月12日に第2回の学校運営協議会を行い、委員の方に授業参加や生徒との意見交換会をしていただいた。

その後も諸行事が中止となった。体育館に全校生徒が入ることができないため、実施が難しい状況が続いた。

12月は2年次生修学旅行を実施した。当初は沖縄に行く予定であったが、3泊4日を2泊3日に縮め、石川県金沢市、岐阜県白川郷、松本城方面へ変更して実施した。また、1年次のキャリアセミナーを行った。

年が明けて1月は共通テストが行われ、本日の2月6日を迎えた。

②学校改善アンケートについて

(教頭) 教職員アンケートでは、研究・研修に関して取り組みがまだ不十分だという回答がある。コロナの関係で予定通りに実施できなかった研修もあったことが低い評価に関係しているのではないかなと思う。来年度の年間行事編成において研修を適宜組み込み改善していきたい。

生徒アンケートでは、「学校へ行くのが楽しいと思える」という項目で、今年度も約30%の生徒が、「あまり思わない」という回答であった。今年度は生徒が主体的に活動できる行事が軒並み中心になってしまったことの影響も大きいと思われる。来年度は、多くの生徒が充実感を持った生活を送れるよう工夫をする必要があると感じている。

保護者アンケートでは、学校から情報がなかなか伝わらないという回答が比較的多い。本校は、ホームページやClassiを利用して、生徒への発信と保護者への発信を行っているが、まだ改善の余地があると感じている。次年度からは特にこの学校運営協議会に関しても、多くの方に知っていただく必要があると考えている。

③授業アンケートについて

(教頭) チャイムと同時の授業開始を徹底することを教員で共有して取り組んでいる。

家庭学習の定着度が低いことが、本校の弱点であると全教職員で共通認識している。文武両道を目指し家庭学習をきちんとする必要があるという認識を持ち、全職員で次年度に向けて取り組みを深めていきたいと考えている。

②③に関する意見・質問

〔委員〕保護者へ情報発信をしているというが、保護者のスマートフォン等に情報が届くという意味か。

（教頭）紙面にて生徒経由で配付するものもあるが、天候状況が心配な時の対応などのような緊急性のあるものに関しては、生徒への一斉配信と保護者の方への一斉配信の2通りで情報等の提供をしている。

〔委員〕生徒向けのアンケートにおける、「学校行くのが楽しいと思える」という項目に懸念を示されたが、この評価項目は、目指す生徒像の「学校に行くのが楽しい」を測るためのキーになる項目だと思う。経年的に見た時に、この項目に肯定的でない回答をする生徒が常に3割位いるのならば本当に何か対応しなければいけない。

〔委員〕マークシート方式でアンケートをとると、データは例年との比較が容易であるが、自由に記述できる部分もあっていいのではないか。

〔委員〕中学校でのアンケート結果からも、読書量が少ないことが分かる。高校入試では、問題文が長く読解力がないと対応できないレベルになってきている。読書をお子たち定着させようというねらいでアンケートをとるが、保護者からは、毎年低い評価しか得られない。

学習時間についても、中学校で十分に習慣化を図り切れていない。

（教頭）朝の読書を本校でも行っており、図書館を使つての授業も、積極的に先生方をお願いしている。

数年前までは、図書館を使う頻度が高かったが、パソコンの導入が進んできた関係で、図書館の利用率が下がってきている。図書館に行くきっかけが学校全体で少なくなっていると感じている。読書量が全体的に減っているということが、現在の課題だと思う。

（校長）図書館がうまく利用してされていないということが教職員アンケートの結果に出ている。朝読書の実施、読書週間を設定、本校元同窓会長寄贈本による望月文庫の設置、図書館通信の発行と多くの取り組みをしているが、読書が生徒に身に付いているか、習慣化されてるか、ということについては検証が必要である。

〔委員〕アンケートを行う際に、家庭学習がどの時間を示しているのか明確になっていない。大学では授業時間外学習というが、授業時間外に自分で必要な学びをする時間が、このアンケートの家庭学習の時間に入れられていない。この質問の設定自体に問題はないのか考えてもいいのではないか。

子供たちの読書量が増えない理由に、長い文章をきちんと読むという習慣が授業の中でされていないということがあるのではないか。系統だった文章を読むという経験が今の子供たちに圧倒的に足りてないと思う。

〔委員〕新聞を読むという習慣もないので、必ずしも読書のことだけではないと思う。活字・文章を読むという習慣づけも大人が子供と一緒に家庭でしてもらいたい。

家庭学習時間の調査について、例えば6校時時間帯以外の課外は授業時間に入らないが、本来はこの時間も含めてもよいはずで、そうすると学習時間が増えることになる。

授業以外の学習時間の量を答えさせると、含められるものがたくさんある。このことについて学校として、県として決まっているか。

（校長）決まっていない。学校独自に学習時間の線を引いていると思う。課外の時間については、おそらく生徒はその時間を含めておらず授業時間という括りであると思う。また、塾の時間については、本校では含める、含めないとは言っていない。来年度からは、そこを明確にしてアンケートをとりたいと思う。そうすると、かなり結果が変わってくるのではないか。その結果を見て、しっかり考えていきたい。

（議長）家庭学習以外の言葉を使ったほうがよい気がする。

教育委員会として何か読書への取り組みはしているか。

（委員）教育委員会としては各学校に任せてある。

今は、画面上で読むようになり読書の仕方や質も今後変わっていくのでペーパーレスで行うことに慣れていかなければならないと思う。

アンケートについてであるが、記述式のものも必ず入れている。無記名で提出させると、面白い意見や正直な意見が出てくる。アンケート項目が多いと、全部に記述回答させることは難しいが、どうしてそう思うのかという項目を入れてアンケートをとるとよいと思う。

(委員) 読書については学校現場の方にお任せしているという状況である。

町立図書館の貸出冊数が年々減少している。読書離れが進んでいるという状況だと思う。

(委員) 町の図書館が非常に充実している。また、各学校に司書がおり、いつでもいい本が読める状態になっている。家庭教育にも関係があるような気がするが、できるだけ本を読むという習慣を植え付けてもらいたい。

3 来年度について

①②学校経営方針について、重視すべき活動について

(校長) 来年度について、柱である学校経営方針、関連して重視すべき活動を、資料に挙げた。

令和3年度の経営方針及び教育目標実現のための方策(案)を提示した。今日、意見等をいただいて来年度に向けて策定し、来年度の年度当初にそれを基にして作り上げていきたい。

まず基本的な柱となるものは、教育理念、教育目標、経営方針、目指す学校像、目指す生徒像である。

本年度は、「チーム身延」というスローガンを掲げて進めてきた。

目指す学校像の中にある、「生徒が通いたい」という点が課題である。先ほどのアドバイスを受けて今後検討し深掘りしたいと思う。

保護者・地域の人々が通わせたいという学校という点については、本校への志願者つまり本校で学びたいという中学生の数は、非常に厳しいものがある。通わせたい学校ということについての課題点には、引き続き取り組んでいかなければならないと考えている。

来年度、この柱の中で、特に中心に据えていきたいことは、今年度から始まったコミュニティ・スクールである。昨年度から中高一貫教育を身延中学校、南部中学校と正式にスタートさせたという背景もあるが、とにかく地域とともにある学校、地域の拠点の高校であるということは本校の特色である。さらには本校の魅力として、ぜひ今以上に取り組んでいきたいと思っている。

県立学校の一つとしての位置付けであるところのままだと埋没しかねないという危機感を非常に持っている。県立高校の一つの身延高校という位置付けでは埋没しかねない。

地域との密接な繋がりを、本校の強みや他との差別化につなげることで、学校経営において様々なことを行い、外部へ発信していくことに取り組んでいきたい。

具体的な方策については、基本的には本年度のものと大きく変わることはない。若干文言を変えたところがある。

自主的創造的な学習態度を育てるための方策の部分に「進学型総合学科高校」としての取り組みとあるが、これは今年度には無かった一文である。

本校が、それまでの普通科・理数科から総合学科に改編されるにあたり進学型という言葉を用いて、それまでの流れを維持するという含みを持った形で名乗っている。いろいろなところで使ってる言葉であり、現在も進学型総合学科高校とパンフレット等にうたっている。進学に偏ることをしようというのではなく、総合学科の特色である多様なニーズにこたえるということに変わらない。その中のニーズの一つである進学を希望している生徒も本校にきている。または、中学生がどこの高校に進学するか決めるときに、近くにある身延高校で頑張りたい生徒がいるはずである。それにもしっかりこたえたい。このことについてしっかりした体制の構築を来年度も継続していきたい。

学習と部活動との両立を図り、進学の部分もきちんと保障する学校でありたいと思う。

現段階の学校として重視して行きたい細かい具体的なことを3つほど挙げた。

1番目は、生徒との意見交換会。第2回学校運営協議会で委員の皆さんと生徒との意見交換会を行い、非常に有意義な会になったと思っている。来年度も、このような機会を設けたいと思う。

さらに機会があれば、外部に発信する機会をいくつも作りたい。

2番目は、生徒による地域貢献。高大連携において来年度は身延町の産業という分野に目を向けて活動を展開する予定である。その成果を全校生徒で共有する機会を持ちたい。また、地域に向けても発信していく機会を持っていきたい。

最後に、保護者への告知・保護者への関わりについて。身延高校に学校運営協議会があることが保護者あるいは地域の人々に本当に知られてるのかということである。学校運営協議会は、公表することになっているのでどのようなことが話し合われているのか、積極的に広報していく必要がある。

(議長) 学校運営協議会は学校長が考える経営方針に対して意見することができる。そのことにより学校長は学校の経営方針を確実なものにする。

委員の背景には地域の人々がいるということで、学校長に意見を言うことができる。身延高校のコミュニティ・スクールを将来的にどうしたいのかという展望がないと意見も出しづらい。ある程度整理しないと、学校長が経営方針に入れることも、我々が提案することもできないのではないかなと思う。コミュニティ・スクールとしての身延高校について保護者へまだきちんと説明されてないので保護者は外から見たら何も変わっていないという見方しか多分できないと思う。今までとこれからの違いをきちんと明確に伝えるべきである。

(委員) 学校運営協議会が経営方針の承認をすることが法律に定められた大きな義務であるため、やはり経営方針が納得いくようなものであることが必要になる。

教育理念、教育目標は不易な部分だと思うので、これはあまり変わるものではない。そうすると、目指す生徒像がそれを現代化したものである。当面このようなことをやっていく、そのためにこういう経営方針に立っているのだという構造が分かりやすくできているとより良いと思う。来年度から大きく変えることは大変なので、これは数年かけてやってもらえればいい。そこがうまく説明つけば、教育目標を具体化するためにこういう経営方針で、こういう具体的な方策に取り組もうということは分かりやすくまとまっている。

学校運営協議会の委員や保護者の方々、地域の方々に、こういう意図で学校は取り組んでいて、その結果が子供たちの姿として表れていることを見てもらう。身延高校がこのような方向でまた来年も頑張っていて欲しいという合意ができてくればこのコミュニティ・スクールというものがだんだんできてくるのだと思う。

生徒との意見交換を行い、それを学校運営に生かしたいということにとっても賛成である。

この学校で行われてる様々な学校評価に関わるアンケートは、課題を見つけるために網羅的に設問が設定されている。課題が見つかったらそれを解決するために必要な情報を集める深掘りするアンケートが必要になると思う。その時に、自由記述はすごく役に立つが、自由記述を手書きで書かせると先生たちの負担は増える。であるから、こういうものにＩＣＴを使っていけばいいと思う。子供たちはグーグルフォームなどを使いスマホで入力した方が手書きよりも早いかもしれない。先生がもう一度打ち直す必要もない。アンケートへのＩＣＴの活用は今後必要になってくるし、今の業務改善の流れにも乗っている。

今年度はとにかく学びを止めないためにＩＣＴを活用したが、来年度以降はＩＣＴを学びを深めるようなツールとしてアフターコロナでも使うためにはどうするかということも研修されていくと思う。情報発信においては、ＹｏｕＴｕｂｅの限定公開を行う方が良い。ＵＲＬを知ってる人にだけ公開すれば、関連する学校、行政機関、保護者などに見せる人を限定することができる。リアルタイムでも見られるし、オンデマンドでも見られる。昼間忙しい保護者の皆さんも自分の好きな時間に今日の発表を見ることができる。

今日のような発表では、質疑はなかなか口頭ではやりにくい。もう一つディスプレイがあり、子供たちがスマホやタブレットを持っていれば、ツイッターなどで何でも質問を書いていける。チャットに書かせると、どんどんリアルタイムで質問が出てくる。双方向のやりとりもＩＣＴを活用すればできる可能性がある。

オフィシャルなメンバーではなくてもいいので保護者の代表者がこういう場に来て、自分の子供とはなかなか直に意見交換ができないが、同世代の子供たちと意見交換ができる機会を持てば保護者にとってもプラスになるはずである。何かそのような形での話し合いへの参加があってもいいのではないかなと思う。

(委員) 身延町とは非常に連携がうまくいっているが、南部町とはなかなか連携がとれていない。

地域との連携にやはり同窓会を利用することが一番いいと思う。

(委員) 身延高校の規模を考えると、職員も以前に比べると随分縮小してきている。そのような中で中高一貫の業務があり、県立学校初のコミュニティ・スクールの取り組みがあり、多分疲弊感にさいなまれている人たちも大勢いると思う。中学校現場でも、いろいろな業務が重なって苦しい中、ようやくやっているという状況もある。そのような中、情報を共有して学校運営協議会においてぎっくばらん話ができたらいいいと思う。

ギガスクール構想が進み、ＩＣＴが当たり前の状況になっている。ＩＣＴを学びを止めない手段から学びを深める手段にということだが、身延町では４、５年前から１人１台タブレットの体制が整っている。高校でもＩＣＴ環境が整いつつある状況であるので、その面での連携を深めたり、お互いのやりとりをタブレットを利用して連携したりするスタイルが生まれるのではないかと考えている。

(議長) この会議は、次年度の学校運営方針について、提案するという場である。

今後目指すところは、地域の学校である。地域ですあるのもっと広い目で見て、県のお金や地域のお金をこのエリアの身延高校も含めたＣＳになっている学校にどんどん投入するというような方向に行政の協力も得ながら進めていければよいと思う。

これは今すぐできるわけではない。そのために何が必要かということを考えながら、地域の学校づくりをしていかななくてはいけない。ヒト、モノ、カネをとにかく動かさなければいけないと思う。

(委員) 実際に学校運営協議会がファンドを持ってるところは結構ある。例えば、高校でも後援会がいろいろな施設設備の整備をするというところもあると聞いている。

地域に学校があることの意味、地元から通える所に高校があることの意味は大きいはずである。こういうコロナの状況になってからは集中すれば良いのではない。あえて分散していろいろな所で生活していけるという社会を作っていく、そのための高校でもあるのかなと思う。

コミュニティ・スクールが知恵をみんなで集め合うような場に将来的になっていき、ここから地域づくりに役に立てるようになってよい。身延高校は地域貢献を標榜されている。その地域はおそらく身延町だけではないはずである。メインのターゲットとなる地域がこの峡南地域ということになると思うので、将来的に持続可能にしていくためにも、その元手をやはり何とかしていくということを考えていかなければならない。

(校長) ＩＣＴの環境整備については、高校も、今年度中にＷｉＦｉの環境が整うように、県が進めている。

来年度から３人に１台のパソコン、その次に１人１台という形の県の施策において、高校もそのように整備がなされていく。それに加えて、学校独自に大型スクリーンの設置などを昨年度から引き続き今年度も行っているので徐々に充実してきている。

南部町、早川町との話し合いについては、コロナ禍ということもあり実現していないままである。これから努力していく。

③来年度の役員について

(校長) ここにいる会長、副会長、委員の皆さんは、学校運営協議会要綱の第６条のいずれかの項目に該当する方として委員をお願いし、県から委嘱をさせていただいている。要項の第８条に、委員の任期は、委嘱の日から当該委嘱の日が属する年度の末日までとする」とある。つまり年度更新ということである。よって、この年度で、皆さんの委員としての任期が終わりとなる。今年度、学校運営委員協議会の委員として、いろいろな支援、協力をいただいたことについて、深くお礼を申し上げたい。

来年度については、学校としては本年度と変わらない構成で、委員をお願いしたいと考えている。

(議長) 来年度の学校運営協議会の予定は大体どのようなになっているか。

(教頭) 基本的には今年度と同じ時期に行いたいと考えている。

【閉会】